

一度訪ねてみたいと思っていた長崎に行くことができました。まず、どこに泊まろうかとウェブをみたところ、一番初めに出てきたのが、カトリックセンターという所で、信者割引があるとのこと、とても丁寧な対応で希望の日の宿泊予約ができました。クリスマスチャンドということで一人一泊400円のディスカウントがありました。

長崎駅からタクシーで坂を登り、カトリックセンターに着きました。浦上天主堂の真前で、和室に通された窓からの風景がこれでした。



ここからどのように市内に出たら良いのか受付できき、路面電車でどこにも行くことができることがわかりました。

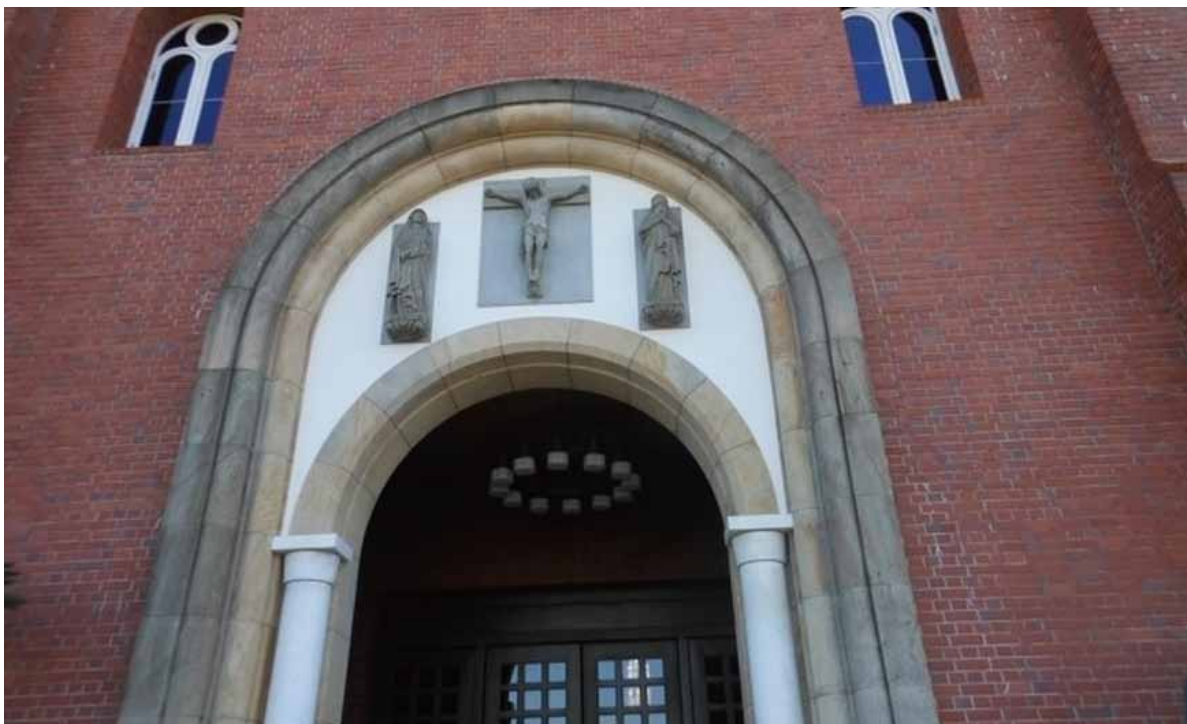
まず目の前にある浦上天主堂はこのような坂の上にあります。



中は、とても美しい礼拝堂でした。係の方にきくと土曜日、日曜日ミサに集う人は1200名、毎朝の早朝ミサには150名の参加者があるとのことでした。



正面の写真がこれです。





ここは原爆が落ちてほとんど建物が壊されたそうですが、戦後また再建されたとのこと。翌日訪ねた爆心地にその建物の残りが建っていました。



ここは浦上4番崩れ（棄教を迫られた信者が拷問された）で知られている所でした。明治維新の前年1867年のことでした。

1597年に殉教した日本26人聖人の記念碑に行ってみました。



フランシスコザビエルが初めて日本にキリスト教を伝えにきたのが1549年、たちまち、長崎でキリスト教がひろまったものの、秀吉によって1587年に禁教令が出され、その後ずっと迫害が続きました。

この日本26人聖人の中には14歳の青年もいたとのことでした。



ほかのカトリック教会も訪ねましたが、皆、今でも生きている教会であることは嬉しいことでした。



古い洋館として有名なグラバ邸を訪ねた時に、そこで見たビデオの説明に驚きました。ちょうどその翌日から開かれる長崎くんちという大きな3日続く祭りの由来の説明でした。それはあまりにもキリスト教がひろまったため、1634年に長崎奉行が土地の諏訪神社のお祭りとして始めたものだというのです。ウェブでその発祥を調べたところ、やはり、そうでした。ということは当時キリスト教は為政者に脅威を及ぼすくらいの力をもっていたことになります。

この地図を見てください。



迫害の中、貧しい信者たちが力をあわせて建築したこの美しい教会の数々。彼らの信仰は死にももの狂い、火のようだったことがよくわかります。それに比べて今の日本人私たちの信仰は「熱くも冷たくもなく、なまぬるいので、私はあなたを口からはきだそうとしている。黙示録3:16」という状態でしょう。

でもこの時代にこんなに多くの信徒が生まれたのですから、今から日本にリバイバルがおこることも不可能ではないと、大いに励まされて帰ってきました。

長崎の虜になりました。もう一度ゆっくり行きたいものです。

竹下弘美



## 折尾クリスチャンチャーチ

住所 〒807-0873

福岡県北九州市八幡西区藤原 2-12-6

電話&FAX 093-692-9200 (9:00~13:00)

メール oriochurch@outlook.jp